

2006年(平成18) 10月

カルメル
霊性センターニュース



ロザリオの聖母(Virgin del Rosario) バルトロム エステベズ

214号

神を見たいと苦悩する魂の歌 (抜粋)

わたしは生きないで 生きている。
死ぬほどに 待ち焦がれている
死んでいないゆえに 死ぬほどに。

わたしは もう 生きているのではない。
神なしに 生きることは 出来ない。
神なく 自分もないままとは
この生 (いのち) は 一体 何だろう？
それは わたしには 千の死
それゆえに いのちそのものに焦がれている
死んでいないゆえに 死にながら。

わたしが生きている この生 (いのち) は
生きることの 欠乏 絶え間ない死
あなたと共に 生きるまでは。
聞いてください わが神よ わたしのことばを、
こんな生 (いのち) を わたしは 求めている
死んでいないゆえに 死ぬほどに。

この死から わたしを解放して
わが神よ いのちを与えてください。
こんなに頑丈な罫に
かかったままに しておかないでください。
あなたを見たいと 苦しみ
苦しみのないところはないのを ごらんください。
死んでいないゆえに 死ぬほどに。

自分の罪のゆえに
縛られている限り
いま わたしの死を 泣き
わたしの生 (いのち) を 嘆こう。
実 (まこと) に言い得る そのときは
死んでいないゆえに ついに 生きている と。

心の泉



泉の心



三位一体のエリザベット帰天百周年にあたって (11) 10月



誓願の十字架を手に

主は、

私をご自分の苦しみに
参与させることのできるものは

何一つとして
お忘れになりません

このように言うエリザベットのカルワリオへの道程は「キリストの人生の延長となりたい」とのあつい望みに支えられていました。一滴の水も飲み込むことのできないエリザベットは高熱のため口の中はますます乾燥し、引き裂かれるような激しい苦痛のさなかに「ああ、私たちはなんと深く愛し合ってきたのでしょうか」と誓願の十字架上のキリストを眺め、胸にしっかりと抱きしめていたということです。

神のご計画を実現するための秘訣——それは自分を忘れること、主以外の何者をも眺めないこと、喜びであろうと苦痛であろうと、神の愛からのものとして同じように受け入れること。こうするならば、心は静かな平安にいたります。

「自分を忘れること」を常に心がけていたエリザベットは、鎮痛剤なしに耐えていた断末魔の自分にとどまることなく「自分」を忘れ、十字架上のキリストの愛に生きていました。そしてすべてを神のみ手から愛の贈り物として受けていたのです。

生涯の終わりに残るのは愛だけです。すべてを愛によって行い、絶えず自分を忘れなければなりません。自分を忘れるものを神は深く愛されます。

帰天百周年にあたりエリザベットはあらためて私たち一人一人にささやいています。

神の現存、私たちのうちに住まわれる愛そのものである神に対する私の信仰をあなたに残していきましょう。

伊従 信子
ノートル・ダム・ド・ヴィ

まだ飛べもしないのに、飛ぼう 飛ぼうとして
両肩を緊張させている人間

中々よくかけ廻るけれども、なんとなく
腰の浮いている人間

人が自分をどう見ているかと、自分の心や
体のスタイルが やたら 気になる人間

ひどく目がすわりすぎて、相手がおいでを
しないかぎり 決していかないと、きめこんだ
人間… 残念ながら 信心家に多いタイプ

愛だの、謙遜だの……

覚えこんだきまり文句で 体の垢を
落としていると 思っている人間
その実、もっととりにくいチャンをくつつけて
いることに、気がつかない人間

こんなのが この世界、とくに 信仰の世界に
ウヨウヨいる。私の中にも こんな回虫が、折角の
栄養を頂戴して、毎日太っていく と思うと
ぞっとする

細い道をたどりつつ あなたのあとを 追っていく
自分の貧しさを ときによろこび ときに 悲しみながら

ヘンリ・ナーウェンの

『旅路の糧』

(92)



私たちの靈的源泉を掘り起こすこと

だれかが私たちを傷つけたり、侮辱したり、無視したり、拒否したりする時、内心の底から抗議の感情がわきあがって来ます。それは、激怒であったり、落ち込みであったり、復讐心であったり、自虐的な衝動であったりします。私たちを傷つけた人たちを傷つけてやろうとする衝動や、はたまた自殺のような自己否定のモードに引きこもろうとする衝動をひしひしと感ずるのです。このような極端な反応は例外的かもしれませんが、私たちの心にとって決して縁遠いものではありません。私たちはしばしば、夜、長い時間、人々が私たちに言ったり行なったりしたことに対して、どのような言葉やどのような行為でお返しすべきか絶えず思いめぐらしている自分自身を見出すのです。

けれどもまさにこの時、私たちは自分の靈的源泉を掘り起こし、私たちの内なる中心を見出さなくてはならないのです。この中心においては、私たちはもはや他者を傷つけたり自分自身を傷つけたりする必要はなく、自由に人々を赦し、愛することができるのです。

(0725)

靈的生活のダイナミズム

私たちの感情レベルの生活と靈的生活は、異なったダイナミズムを持っています。感情レベルの生活の浮き沈みは、大部分、過去や現在の外的状況に負っています。私たちは、ずっと前に起こったことのため、あるいは今起こっていることのために、うれしくなったり、悲しくなったり、怒ったり、退屈したり、興奮したり、落ち込んだり、愛したり、心配したり、憎んだり、復讐心に燃えたりします。

これに対し、私たちの靈的生活の浮き沈みは、私たちの心の内部で働く神の靈に忠実であるか否かに、すなわち注意深くその声に耳を傾けているか否かにかかっています。この傾聴がないならば、私たちの靈的生活は、結局のところ、千々に乱れる私たちの感情の波にもてあそばれることになるのです。

(0726)

くのり
九里 彰訳

『必要なことは、ただ一つだけ』(17)

ルドルフ・V・デ・スーザ OCD (カルメル会)

苦しむことは栄光の種をまいたということ

あなたの人生で苦しみに満ちた出来事をいくつか思い出してみてください。それらに対してあなたはどれだけ、それらがあなたを変え、成長させてくれたという理由で、今本当に感謝しているでしょうか。私自身の人生においても、私をより良い人間としてくれた体験は、無数にあります。いくつかは、苦しみに満ちた体験でした。私は仲間と非常にきつい言葉を交わしたことを思い出します。私の言葉はその時、彼を傷つけ、その後も私の心に絶えず現れるようになりました。それは、私がまだ消化できていない日です。その日、私は外に出、自分を受け入れようともがきました。苦悶のその時、私は二度とその種の言葉を、この星にいるだれに対しても口にしまいと深く誓ったのです。苦しみの出来事によって、私は教え諭されたのです。

ここにはほとんどの人がなかなか見出さない人生の単純な真理があります。あなたが傷ついた最初の時のことを、あるいはあなたが何か仕事をしていてナイフで指を切った時のことを思い出さない。痛みを体験しましたか。傷つくということはどういうことか、指を切るとはどういうことか理解させられましたか。その知識は、他者の痛みを理解する助けとなりましたか。楽しい出来事は、人生を喜びで満たします。しかしそれらは、自己発見や人間的成長や自由へと導きません。それは、私たちに痛みを惹き起こすものごとや人や状況に留保されているのです。一本の木は、激しい風と焼けつくような陽にさらされる時、成長するのです。

苦しみ満ちたどのような出来事も、それ自体の内に、成長と解放の種を持っています。この真理の光の中で、今あなたの人生を振り返り、あなたが感謝していない出来事の一つ二つを顧み、そこに自己の成長の可能性を発見できるかどうか

探って見てください。あなたが気づいていなかった領域や恵みを受けそこなっていた状況など。今度は、あなたに苦痛を惹き起こし、あなたの中に否定的な感情を生み出した最近の出来事をいくつか考えてみてください。そのような感情を惹き起こしたものが何であれ、誰であれ、それらは皆あなたの教師なのです。なぜならそれらは、あなた自身について、あなたが恐らく知らなかったたくさんの事柄を明らかにしてくれたからです。そしてそれらは、自己理解や自己発見、それゆえに成長と命と自由への招きと挑戦をもたらしたからです。

何があなたを実際のところ妨げているのか

あなたが自分の外の何かを見る時、あなたは実際、非常にたくさんのものによって条件づけられているのです。まず自分自身の中をよく見るように努め、人や状況に対するあなた自身の反応を調べてみてください。そうすれば、あなたの反応の背後にあるさまざまな先入観や思い込みを見出して驚くことでしょう。それらは、あなたが反応しているこの人やこのものの具体的な現実ではほとんどないのです。あなたが自分自身の中に子供時代から作り上げてきた原則に反応しているのにすぎないのです。それらは、あらゆるイデオロギーや信念の体系—経済的、政治的、宗教的、心理的信念の体系—、あらかじめ考えられた見方、先入観であって、或るものは肯定的なもので、或るものは否定的なものです。それらから一回に一つだけ、人とか物とか状況とかを取り出してください。あなたの目の前の現実をあなたの理解や投影から切り離しながら、あなたの先入観を探ってみてください。それは一つの訓練であって、聖書が提供するのと同じように神聖な啓示をあなたにもたらすことでしょう。こういうわけで、イエスは空の鳥や野の草を、私たちが模倣すべき最高の理想として差し出したのです。

先入観や信念は、明晰な思考を妨げる唯一のものではありません。十字架の聖ヨハネが指摘したように、欲望と恐れと呼ばれる別の敵がいます。あなたは、これら二つの悪霊によって汚染されていないあなた自身の考えを持っていますか。人々は、自分たちの思考は、頭の中でやっていると誤って理解しています。(続)

くろり
九里 彰訳

年間第26主日

「私たちに逆らわない者は、
私たちの味方なのである。」

(マルコ9 : 38-42, 44, 46-47)

ある人々は、他の人とはまったく異なったグループのメンバーであることに誇りを持っています。それは、地域の町内会のようなものから国際的な会社組織に至るまでさまざまなレベルに見られます。宗教的であれ政治的であれ社会的であれ、特別なグループに入ることは、私たちの世界を広げ、新しい人々や新しい可能性へと私たちを導いてくれます。それはまた、比較的安全な人間関係の輪の中で活動することを可能にしてくれます。このような帰属意識は、私たちのアイデンティティーにとって重要です。メンバーであることは、私たちが自分をどのように理解しているかの証しだからです。拒否は、不賛成の明らかなしるしです。

今日の福音では、イエスの弟子たちは、彼らのグループに属していない悪魔祓いの権威を認めることを拒否しました。ヨハネはイエスに訴えます。「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、私たちに従わないので、やめさせようと思いました」。悪魔祓いの活動は成功していましたが、そのことが明らかに弟子たちを当惑させます。彼らはイエスも彼を止めるべきだと考えています。しかしイエスは、神の善良さのより大きなヴィジョンへと脆弱な弟子団を導きます。彼は弟子たちに、部外者をそのままにしておくように命じます。「私たちに逆らわない者は、私たちの味方なのである」。こうしてイエスは、悪魔祓いのアイデンティティーを認め、承認し、弟子たちに、キリストの弟子であるという理由で弟子たちを受け入れる者はみな、その報いを失うことはないと言います。

イエスの教えは、私たちにもためになります。イエスは私たち一人ひとりが寛大であるよう求めています。キリスト者の寛大さは、私たちより常に大きな真実に対する尊敬です。それは、私たちの限界を超えて開花するキリスト教的愛を承認することです。それは、何のとらわれもなく働く神の自由に対する深い尊敬であり、神の偉大さの前での謙遜です。

(Sr.Paulina)

年間第27主日

「従って、神が結び合わせてくださったものを、
人は離してはならない。」

(マルコ 10 : 2-16)

とはいえ、真実であろうとする約束は、一定の条件を満たさなくてはなりません。ちょうど一粒の種が—これが約束なのですが—、まず地に埋められ、目を出すまで雨や風や日にさらされなければならないのと同じように。結婚を通して実現される神の約束もまた、或る条件を持っています。すなわち愛における全体性と最後まで忠実であることです。

一致と完成の本来のヴィジョンは、イエスが今日の福音の中で要求していることです。何人かのファリサイ人は、イエスに妻を離縁することは律法に反しているかどうかたずねます。ファリサイ人への答えにおいて、イエスはモーセの律法の有効性を問題とするのではなく、離縁は人間の罪深さへの譲歩であると主張します。彼は、男と女はゆるぎない絆で結ばれるべきであるという創世記に示されている、結婚に対する神の本来の考えを思い起こさせています。イエスにとって、神が始めから望まれていた事柄は、すべての結婚の規範となるべきものです。

離婚が簡単に行なわれ、結婚が軽く取り扱われている世界で、イエスは神の本来の計画を明らかにするために、原初のすがたにもどるようすべての人に呼びかけます。それは、男性と女性が互いの誓約を神のまなざしの光のもとで理解し、神の本来の呼びかけに忠実に生きるようにとの招きです。

経験は、ことがまったくうまく行っていないことを教えています。人々は過ちを犯しています。不忠実さが起こり、夫婦は犠牲者かつ抑圧者となります。果てしない沈黙が生じます。結婚は、墮落するのです。教会は、助けが多くの人にとってあまりにもゆっくりであるように見えても、人間的な失敗と不完全さに対して援助の手をさしのべようと準備しています。

「主イエス、離婚によって傷ついているすべての家庭の上にあなたの霊を送ってください。あなたの恵みが憎しみと不信と不寛容の連鎖を打ち破ることができることを彼らに知らせてください。あなたの光を彼らの闇に輝かせてください」。

(Sr.Paulina)

年間第28主日

「行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば天に富を積むことになる。それから私に従いなさい。」

(マルコ 10 : 17-30)

かつて、説教者のことばが説教壇から雷のように響きました。「あなたの愛がその人を傷つけないならば、それは愛ではまったくくない。あなたが痛みを感じないならば、あなたは何も与えなかったのだ」。考えさせられる言葉です。難しい言葉でもあります。この言葉は、あらゆる愛の形態に適用されます。お金の面で貧しい人々に対してばかりでなく、私たちの人間関係や約束や他者に対する判断においても。

イエスは愛をもってこの金持ちを見えています。彼はこの非難すべきところない熱心な男が自分の弟子の一人となるよう望んでいます。こうして挑戦がなされます。「行って持っているすべての物を売り払い、貧しい人々に施しなさい」。キリストの弟子となるために支払われるべき代価は、この見込みのありそうな若者にとっては重過ぎました。彼は、天の宝を受け取るために、自分の安定や富がもたらす特権を放棄しなくてはなりませんでした。

自分の財産という確固とした安定の他にある、天の宝とは、何でしょうか。イエスの前にひざまずいた時、イエスの言葉が彼に鳴り響きます。彼は向きを変え、がっかりしながら立ち去ります。

金持ちの青年とイエスの出会いと富に関するイエスの教えの物語は、今日私たちに対する挑戦として立ち現れています。私たちは、人間の成功を経済的な成長と安全によって測っている社会に生きているからです。私たちの価値を自分の力や利益や財産の上に置く危険性があります。私たちが自分のすべてを捧げているところのものであるならば、私たちの本当のアイデンティティーは、私たちが仕えているところのものによって明らかにされます。

福音書は、私たちがこの問題に関して立ち止まって熟考するように、イエスの諸価値の光の中で自分自身を批判的に見るように求めています。今日の福音の金持ちの男のように、財産に対する執着は、すぐにその執着に支配された存在へと私たちを変えてしまいます。このことが起こると、私たちはもはや自由に、イエスの招きを受け入れられなくなるのです。物質的な財に対する執着は、正しい選択をする自由をわたし達から奪ってしまうからです。

(Sr.Paulina)

年間第29主日

「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者となりなさい。」

(マルコ 10 : 35-45)

二人の兄弟は、イエスが栄光を受ける時、彼らに特別の席を用意してくれるようにという頼みをイエスにきいてもらおうとしました。イエスはそのように頼む彼らを非難せず、真の偉大さは仕えることによって実現することを彼らに示しました。「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者となりなさい。」

私たちが共に生き働いている人々に助けの手をさしのべながら、奉仕と正義のセンスをもって毎日の仕事を行なう時はいつでも、私たちは総じて神と人間社会に仕えているのです。キリストは、私たちが義務感を越えて、仲間の人間に報酬や報いを期待せずに、また感謝や賞賛を度外視して仕えるよう求めているのです。それゆえ、真実のキリスト教的奉仕は、他者の生活の中に光と希望、援助といやしをもたらすキリストのわざを継続するために、いかなる個人的な利益などなしに、ひたすら愛から行なわれるべきものです。したがってそのような奉仕は、無条件的なものです。かつて或るヒンドゥーの金持ちの紳士が、マザーテレサに死に行く人々のための家を作るためのお金を申し出ました。が、条件が一つありました。それは、その家がヴェジタリアンの家ではなくてはならないというものでした。けれどもマザーテレサは、すべての人々の最後の望みをかなえようとしていたのです。それは、ガンジス川の水のようなものであったり、タバコであったり、鶏の足であったりするでしょう。ヴェジタリアンの家では、だれにも鶏をあげることはできないでしょうから、マザーはこの申し出を断ったのでした。

隠された利己的な動機のないこの種の奉仕は、キリスト者にとって価値があります。そして価値ある奉仕は、人に犠牲を強いる奉仕なのです。私は、イエスが飲んだ苦しみの杯から飲むことを言っているのです。その苦しみによって多くの人が正しい者とされるように、神は「病にある彼を打ち砕いた」のです。実際、ありがたいことに、キリストの模範に従って、無私の奉仕に身を捧げてきた無数の人々が、過去にも今の時代にも存在するのです。

(Sr.Paulina)

年間第30主日

「そこでイエスは答えて、彼に言われた。『何をしてほしいのか』」

(マルコ 10 : 46-52)

主が私たちに何をしたらよいのかたずねるといふことは、信じがたいことです。しかし、時々それは、私たちが答えなければならない問いなのです。バルティマイは盲人でした。彼は、イエスにしてほしいことをはっきり知っていました。すなわち、視力の回復です。しかし彼は、肉体上の視覚以上のものを受け取りました。彼は救いを得たのです。というのもイエスは、バルティマイの心が誠実であることを知っていたからです。バルティマイは、この賜物をすぐに、救い主の弟子となるために使いました。

イエスは、ヤコブとヨハネにも、何をしてほしいのかたずねました。彼らは、イエスの王国において最高の地位に着くことを望みました。この時イエスは、彼らが望んでいるものを与えることができないとお答えになりました。彼らの要求は利己的で、他の弟子たちの間に不和をもたらしました。

イエスが人々のあらゆる状態に関心を持っておられることを認めた上で、私たちはバルティマイに倣い、イエスに近づくべきでしょう。彼は、キリストのもとに行こうとするすべての人の象徴です。彼は盲目の物乞いでした。自分自身のものは何も持たず、イエスのもとへ駆り立てられる必要性だけがあり、お返しをする贈り物も何も持っていませんでした。よい知らせを説くイエスの評判を聞き、主としてのイエスに助けを求めたのです。

神のみ旨にしたがって私たちが祈る時だけ、イエスは私たちの要求を聞き入れてくださいます。私たちが利己的に願うならば、私たちの祈りが聞き入れられないことを知るでしょう。私たちが望んでいることの実現を神がさしひかえるとすれば、その場合は、私たちの動機は利己的ではないかと、自分自身の祈りを振り返るべきでしょう。神が与えようとしているものよりずっとわずかなことしか私たちは願っていないのではないのでしょうか。告白していない罪がまだあるのではないのでしょうか。神は私たちの要求に答えることを喜んでおられます。神のみ旨にしたがって私たちが願うならば、私たちは、バルティマイのように、私たちが期待していたものよりはるかに多くものを受け取ることでしょう。

(Sr.Paulina)

…ケリトの水にうるおされて…

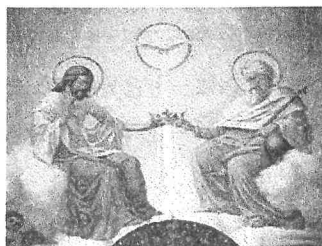
カルメルの聖人たちの祈り

11. 尊者神のセラフィナ (1621-1699)

尊者セラフィナは、1621年、イタリア、カプリに生れ、幼少のころから既に祈りに強く引かれていた。彼女は、すべてのことにおいて神を賛美し、あらゆるところに神を見出した。ナポリのカルメル会に入会し、絶え間なく神を見出した。セラフィナは、姪の死が明らかに自殺であったと聞かされたときでさえ、神を賛美し、「主は与え、また取り去られます。主の御名はほめたたえられますように」と祈った。このことは、神のみ摂理に対する揺らぐことのない彼女の信頼を証明するものである。生涯中、彼女は七つの修道院を創立し、ナポリの聖テレジアと呼ばれることも多い。聖体の秘跡に対して非常に深い信心を持ち、ご聖体の主が安置されているなら、主が満ち溢れさせるその香りは聖堂だけにどまらず、修道院中に広がるのだと、修道女たちに説明していた。1699年に死去。

— 祈り —

三位一体について語るならば……
おお、真理の中でも最も輝かしい真理よ！
おお、輝けるほの暗さよ
あなたをお愛する者にとっては
これほど明らかなお方であるのに！



* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列 17:3-4)」ということばに由来しています。

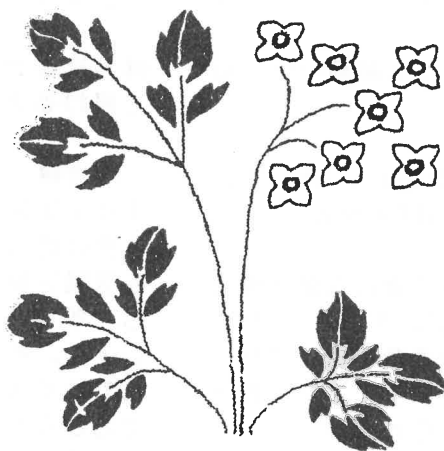
(浜田裕子訳・編)

“生きること”と“生かされること”

私たちが意識してもしなくても、“時”は遠慮なく過ぎていきます。始めは「秒」を刻み、それが「分」に、次いで「時間」になり、その連続が人間だったら「人生」になり、時間の経過に従って「人生の年輪」となっていくます。私もつい最近までは、この“人生の年輪”など考えたこともなく、時間というものが、あまりにも大手を広げて私を受け入れてくれていたので、ほんとうに自由の中を泳いでいました。それはあたかも小学生時代に、運動会の徒競走で一等になり、両手と胸を思う存分広げてテープを切る時の気持ちのように、目前に何の障害物もなく、“世界は私のもの”と言わんばかりに心の隅々まで“自由”が浸透しきっていた、あのと時のようなものでした。あれから半世紀以上も過ぎ去った昨今は、この若い時の自由な思いは何処へやら、ややもすれば腰痛や足の痛みを感じ、町を歩けば若者に追いつかれたり、駅の階段を昇ろうものなら、頂上につく手前で“ドッコイショ”と一息つきたくなるような……「人生の年輪が増える」ということは、肉体をもっているが故に大変なことなのだということを実感するこの頃です。一般論なのですが、加齢者にとって“生きる”ということとは、まづ体力の低下からくる行動の減速ということは隠しおおせない現実なので、これを受け入れるより仕方がないワケですが、ただその受け入れ方に、自分中心が強くなると、目は見えているのに周囲の人々の景色が見えなくなり、いわゆる「自己中（心）」というワナに引っ掛かってしまいます。心情的に、身体的に、若い人のように出来ない自分を無意識のうちに、何とか慰めようとしていることが多々あります。いつか寄稿した“年寄りと盆栽”というのもその一例でしょうし、自分の体のタメになることと、ならないことの自然的な選択（人によっては食物についてこの制限を設けないかも知れませんが）もしてしまうのです。“生きること”は大切なのですが、上述のようなケースなら、意識的であっても無意識的であっても、“私”という概念が心の中心に、無形のうちにドーンと居座っているのですから、自分にとって「よいことでも悪いことでも」すべては自分から放射しているワケです。では“生かされることとは？”これは健康優良児が前提ではないと思います。自分のそとの客体、つまり他人のために何かをしてあげられること。例えば足が使えなければ手でできること、(洗濯物たたみとか)、手足が使えなければ口で何かを読んであげるとか、ケースバイケースですから一々具体例はあげられませんが、とに角、こんな自分でも他人のお役に立てるようなことが出来たら……というのが大きなモットーであれば素晴らしいと思います。そして相手が喜ぶのを見る

と、それは自分のエネルギーのモーターを動かすことになるし、このモーターが動いている時に、神さまはその人にとっての大きな喜びを与えて下さるものなのです。このエネルギーが連続すれば、手、足、腰が多少不便であっても、この人は生かされると言えるのではないのでしょうか。それで有名になられた画家もいましたね。“生かされる”とはヒビの入った体であっても、その道具を使って人のお役に立とうとするときに、神さまは大きな喜びを与えて下さるのです。その時にはもう「自分が、自分が…」という狭いメガネは落ちて無くなり、“神さまと人のお役にたてるのは何と素晴らしいこと”という喜びで満たされるのだと思います。細かい計算はもう何も要らなくなることでしょ

お告げのフランシスコ姉妹会 S r. 熊田 照子



いのちの言葉 9月

御言葉を行う人になりなさい。聞くだけで終わる者になってはいけません。
(ヤコブの手紙 1:22)

私たちは福音の言葉を実践するよう求められており、私たちがそれを生きる時には、新たな命が与えられます。

神が私たちに語ってくださるのですから、その言葉を受け入れないことはありませんでしょう。聖書の中には、「み言葉を聞くように」という招きが1153回も出てきます。また、み言葉そのものである御子イエスが地上にいらした時、御父は「これに聞け」¹と弟子たちを招かれました。

聖書に「聞く」という言葉が出てくる時、耳よりも心で聞くことを意味します。子供が母親の腕に安心して抱かれ、どこにでも連れて行ってもらう、そのような信頼感をもって、私たちも心から神の言葉を受け入れ、それに従って生きるよう招かれています。

使徒ヤコブは、このことを書簡の中で思い出させてくれます。

御言葉を行う人になりなさい。聞くだけで終わる者になってはいけません。

このヤコブの言葉には、「神の言葉を聞き、それを守る人は幸いである」²「わたしの母、わたしの兄弟とは、神の言葉を聞いて行う人たちのことである」³というイエスの教えが反映しているのが感じられます。

ヤコブは、イエスが用いられた種蒔きのたとえを思い起こしながら、み言葉を人の心に蒔かれた種にたとえています。私たちが素直な心でみ言葉を受け入れるよう招か

れていますが、ただ受け入れて、聞くだけでは足りません。蒔かれた種が成長して実を結ぶように、神の言葉も、私たちの生活となって具体化される必要があります。

イエスは、二人の息子のたとえを用いて、これを説明されました。父から畑に行くように言われた弟は「はい」と答えながらも、結局は出かけませんでした。一方、兄の方は「いやです」と言いながらも、最終的には父の命令に従い⁴、具体的な行いによって、み言葉を聞くことの意味を示しました。

またイエスが、「山上の説教」の最後の方で語っておられるように、み言葉を聞く人とは、それを行う人です。その人の生活は、岩の上に建てられた家のように、堅固でゆるぎないものになります⁵。

御言葉を行う人になりなさい。聞くだけで終わる者になってはいけません。

み言葉一つひとつの中には、私たちに對するイエスの愛が表われています。み言葉を具体的に生き、自らのものにしましょう。み言葉を実践する時、私たち自身や周りにも、新たな命があふれ出るのを経験するでしょう。私たちがみ言葉そのものに変えられていくよう、福音を心から愛し、私たちの内からあふれ出る福音が、周りの人にも豊かに注がれるようにしたいものです。このように生きるなら、イエスの愛に対して、私たちも愛で応えることができます。

私たちが生きるのではなく、イエスご自

¹ マタイ 17:5

² ルカ 11:28 参照

³ ルカ 8:20-21 参照

⁴ マタイ 21:28-30 参照

⁵ マタイ 7:24 参照

身が、私たちの中で生きてくださるようになるでしょう。

私たちは、自分自身や自らの限界、奴隷状態から自由になるのを、手で触れるように体験するでしょう。そして、私たちの中で自由に生きてくださるイエスが、愛によって、力強くこの社会を新たにしていかれるのを目にするでしょう。

御言葉を行う人になりなさい。聞くだけで終わる者になってはいけません。

● 私たちは、フォコラーレ運動の初期から、これを体験してきました。当時は第二次世界大戦の最中で、北イタリアのトレントの町に住んでいた私たちは、爆撃を避け、小さな福音書だけをもってしばしば防空壕へ逃げ込んだものでした。

福音を開いて読んでいくと、神の特別な恵みだったと思いますが、それまで何度も聞いたことのあるみ言葉の一つひとつが、まったく新しい光を帯びて浮かび上がってきたのです。福音の言葉は、まさに「命の言葉」であり、実際に生きることのできるものでした。たとえば「隣人を自分のように愛しなさい」というみ言葉に従い、私たちがまわりの人を愛するようにした時、戦争の悲惨な状況の中、暗い日々を過ごしていた人々も、ほほえみと心の平和、生きる意味を再び見出すようになりました。また「与えなさい。そうすれば与えられる」というみ言葉通り、私たちが自分のわずかなものを人々に与えた時、神のみ摂理で多くのものが届き、それをまた町の貧しい人々に配ることができました。

こうして、わずか数ヶ月後、私たちの周りには、500人ほどの生き生きとした共同体が生まれたのです。

これらすべてが、毎瞬間たゆまずみ言葉を生きた実りでした。私たちの心は、ただみ言葉で満たされ、「私たちが言葉を」生きていたというよりも、「み言葉が私たちを」生きていた、と言えるほどでした。「み言葉を生きていますか」「生きたみ言葉になっていますか」を合言葉のようにして、私たちは、み言葉を生きる努力を

続けました。

今も私たちは、このような生き方に招かれています。福音はいつの時代にもあてはまるものですが、それを信じ、体験できるかどうかは、私たちにかかっています。

キアラ・ルービック

(2006.9)

★ いのちの言葉はその月の主日のミサで朗読される聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

私がフォコラーレに出会い、み言葉を生き始めた時のことです。み言葉の素晴らしさを体験した私は、妹にもこの生き方を知ってほしいと思い、いろいろな形で伝えてみましたが、キリスト教も知らなかった妹は関心を示しませんでした。ある時、「自分と同じように隣人を愛しなさい」というみ言葉を生きながら、私は妹に対して、自分がよいと思うことを押し付けるのではなく（姉という立場もあって、私にはそういう傾向がありました）、妹の身になって、妹が愛されたと感じられるように接する必要があるのを感じました。小さなことから始めて、日々そのように生きるよう努めてしばらくたったある日、まったく期待しなかった機会に、妹が「キリスト教の洗礼を受けるためにはどうすればいいの？」ときました。やがて彼女は受洗の恵みを得ましたが、私にとっては、み言葉を「生きる」時に神様ご自身が働いてくださるのを実感した体験でした。（東京都・T）

フォコラーレ

連絡先:03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

いのちの言葉のホームページ

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/>

キリストに導かれた試練

私の娘は、出生時死にかけた。
助かる見込みは、5分5分だった。
帝王切開で、産科の先生が娘を取り上げて下さった後、羊水が肺に入って窒息した。

小児科の先生が、徹夜で肺を洗って下さった。レントゲンで肺がまだ真っ白だった。それこそ必死になって、青い顔をして助けて下さったらしい。命の恩人である。

未熟児の小さな私の赤ちゃんは人工呼吸器につながれ、3日間生死を彷徨った。主人とわたしは、助かっても脳性麻痺を覚悟していた。

看護婦さんが走って知らせに来て下さった。

「加藤さん、赤ちゃん抜管したよ。」3日目のことだった。命が助かった。

帝王切開から1週間、「加藤さん、赤ちゃん見に行こ。」またしても看護婦さんが、車椅子に私を乗せて小児科の病棟に私を連れて行って下さった。

私の赤ちゃんは、保育器のなかで点滴の管にっぱいつながれていた。酸素のガラスをかぶって、ようやく自分で呼吸していた。

小児科の先生がおっしゃった。

「手早く処置したから、大丈夫と思いますが、脳に酸素がいったない時間がありますので発達の遅れを見守ってください。」

私はこのとき、まだ神様に出会っていなかった。それで、浅はかにも、人知の及ぶ限り、死力を尽くして頑張った。つまり、

「障害のある子を、どうしたら少しでもその障害を軽くすることができるか？」・・・その種の本を読みまくっては実行したのである。もともと子宮に病気が見つかって危険といわれたお産だっただけに、産後の母体の方にはこたえていたはずなのに、私は、「赤ちゃんが・・・！」とっては、暴走した。3ヶ月、ほとんど眠らなかった。そして、なんと、うつ病になってしまった。

そして私はなんにもできなくなった。

主人をはじめ、いろいろな人にお世話になり寝ていた。私は全く非力だった。実家の親や兄弟に罵られもした。

うつ病といえば、今でこそ、本で紹介されたり現代病ともいわれているが、それでも、精神病として忌み嫌われたり、偏見は根強い。また、なった者にしかわからないというのも本当だと思う。端的に言って、頑張りすぎて、精神的・肉体的に限界を超えた時になる。

今なら、神様から与えられたお休みと思えるだろう。しかし、当時の私は、早くよくなりたい余り、焦り、無理をし、できない自分に絶望し、死にたかった。

赤ちゃんのことだって、もし、あの時、信仰があったら、命を取りとめた時点で、あくせくすることなく感謝して、夫婦でゆっくり子どもの将来を考えながら育てていくこともできただろう。

私は賢しらだったかも知れない。
絶えず、人間的計らいで、頭がいっぱいだったかも知れない。
神は、私にのたもうた。

「賢しらを捨てよ。計らいを捨てよ。

全て汝の主によだねなさい。」

この時、まだ私は主に出会っていない。主は、準備のため、私にうつ病を与えたもうたのである。

主人には、感謝しなければいけない。
夜中3回のミルクや、ほ乳瓶の消毒、風呂、家の掃除、離乳食、日々の食事に、私の看病——働きながら、してくれた。なにしろ、夜は、睡眠薬を飲んで熟睡していた私であった。

首の座りから寝返り・・・全て遅かった。その娘が、1歳半で、言葉が溢れ出した。1歳半で言葉が出るかでないかが、障害を見分ける大きな節目になる。主人と私は、「ああ、この子は障害がなかった。」と小躍りして喜んだ。しかし、代わりにとってはなんだが、私が心の障害児になった。

死にかけた子が、生きて、元気に育ってくれた。絶えずそこが、私たちの娘の原点である。

明石家さんまさんが、子どもに「いまる」ちゃんと名付けられた。
「人生、生きてるだけで、まるもうけ。」という1番好きな言葉から、命名されたそうである。それでは、わたしたちのむすめもまた、「いまる」ちゃんである。

抗うつ剤を飲みながら、助けられて育児をし、うつ病は1度治った。が、複雑な人間関係をきっかけに再発することになる。

神に本当に出会い、夫婦で洗礼を受けたのは、それから10年後である。
親鸞の歎異抄も一生懸命読み、鈴木大拙の他力も、必死で勉強したが、私は、救われなかった。極限状況のなかで、私が、打ち砕かれて、ぼろぼろになって、求め、叫び、応えて下さったお方は、——
キリストだった。

宇治カルメル会信者
加藤恵美子

母

虫の音が逝く夏を惜しむような京都のお寺で、母と音楽を聴いた。月明かりに浮かぶお御堂に、ソプラノの歌声が流れると、母は嬉しそうに身体を揺すらせた。身振りはだんだん大きくなり、やがて両腕をひらひらさせてメロディを口ずさみ始めた。他の人たちの迷惑にならないように、私は母の肩を抱き、夫はその手を握りながら耳元で「歌ったらダメだよ」とささやいた。母の心が音楽と響きあうのを身体で受け止めながら、時の経つのが惜しかった。

「あなたはどなた？」母の記憶が薄れ始めてもう数年になる。お料理ができない。お買い物ができない。やがて洋服も一人では着られなくなった。そして、とうとうこの夏、母は久しぶりに会った私を見て戸惑いの表情を浮かべた。「あなたの娘」と言っても、もう「娘」ということばの意味が分からない。だが、何故か母は直ぐに私と夫のことを思い出した。「いつも良くしてくれる親切な人たち」だと分かったらしく、本当に嬉しそうに笑った。

2年ほど前、まだ母が字を読むことができた頃、私たちは母を連れて海辺の旅館に泊まりに行った。往きの新幹線の中、「しばらく僕がお相手をするから」と、夫は離れた席に母と座り、その晩泊まる宿の名前を教えていた。

「お母さん、『羽』は何と読む？」「ああ、それはねえ『はね』」「そうだよ。でも別の読み方もあってね『は』と言うこともあるんだ。ここではね『は』って言うんだよ。じゃ『衣』は何と読む？」「これはね・・・『い』」「そう、その通り。でもね、ここでは『ころも』っていうんだ」「『ころも』？」「そうだよ。だから『羽衣』はね「はごろも」って言うんだよ。言ってみて」「はごろも？」「そうそう、今晚は羽衣ホテルに泊まるんだよ」「はごろもホテル？」「その通り。じゃあ、もう一度読んでください。これは何と書いてあるの？」「はごろもホテル」「すごい、すごい」夫は母と一緒に手を叩いた。そして母が読めるところを私に見せたくて、興奮しながら手招きした。側に行くと夫は母に羽衣ホテルのパンフレットを示し「お母さん、これなんて読む？」。母は得意満面で答えた。「はねい」。

あとどれぐらい母と楽しい時間を過ごすことができるだろうか。実家で、一人、母の世話をしている弟と相談して、みんなで京都に一泊旅行をすることにした。おしゃれな服を着せてもらった母は八坂神社から「ねねの道」をたどり、三年坂を上って清水の舞台までよく歩いた。美しい景色、きれいな千代紙、おいしいお菓子、優しい心。母にはまだたくさんの喜びが残っていた。それは、私たちにとっての喜びでもあった。

コンサートの余韻に浸りながら、壊れ物を守るように母の足元に気をつけて宿に向う。私の前を弟に手を引かれた母が歩いていく。「どこ行くの？」「さっき晩御飯を食べた旅館に帰るんだよ」と弟が答える。「なんで？」「今晚は京都に泊まるの。みんな一緒に」「みんなって、誰と？」

「あちらへ行きなさい。少女は死んだのではない。眠っているのだ。」人々はイエスをあざ笑った。群衆を外に出すと、イエスは家の中に入り、少女の手をお取りになった。すると、少女は起き上がった。（マタイによる福音9・24-25）

奇跡など起こりはしない。どんなに祈っても、母の記憶は戻らない。私たちの息子が4歳で一人旅立ったときも、あらゆる罪を悔い、心が千切れるほど泣いたけれど、子どもは起き上がらなかった。天国に行けば会えるというが、それは我慢の理屈。私は、今、この腕であの子を抱きしめたいのに。

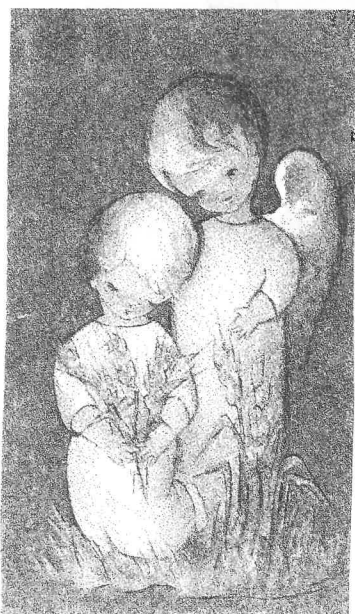
弟が母の左手を取って、ゆっくりと石畳を下っていく。弟には辛いときがあった。そして絶望の淵で神と出会い、洗礼を受けた。今、母の右側にはもうひとつの人影がある。弟を理解し支える心の優しい女性だ。灯籠の光を受けて、手をつなぐ三人の姿はシルエットになった。

そのとき、私は、この世に奇跡があるのなら、それはこのようなことなのかもしれないと思った。命のある限り、私にはこれからもさまざまな試練が与えられるだろう。神の声が聞こえないことに苛立ち、信仰を疑うような気持ちになることもあるだろう。でも、もしかしたらそんなとき、心の片隅に刻まれたこの夜の光景がよみがえって、私は救われるかもしれない。

母にありがとう。神に感謝。

（上野毛教会信徒・同時通訳者）

新崎隆子



テレーズとともに

蛭田 幼一

ある日 私のこころに 無言の歌が湧いた
祭壇の右側から 流れる水のように 泉の水の歌のように

修道服を身につけた洗い場のテレーズ 私も

命の洗濯をしにいったのだよ 霊の結ぶ実を求めて

霊の結ぶ実が喜び 霊の結ぶ実は平和

記憶の底から私のこころに 無言の歌があふれてきた

あなたの前に座っていると あなたはともに祈り

我らを鼓舞してくださいようだった

テレーズ あなたの祈りは 静かな 力づよい霊の歌

祭壇の右側から 流れる水のように

泉の水の歌のように いまも無言の歌が湧き そのほとりで
いつまでもいつまでも 耳を澄ませている人がいる



洗濯場のテレーズ（左から二人目）

「重要なことはどこではなくどのようによです」

カルメル会の企画案内



内案画金の会水々水々



福者三位一体のエリザベットの帰天百周年記念

エリザベットは、1880年にフランスのブルージュに生まれ、1901年にディジョンのカルメル会へ入会しました。5年間の修道生活の後、100年前の1906年11月9日26歳の若さで亡くなるまでに、「神は私の内に、私は神の内に」と三位一体の現存の神秘をひたすら生き抜きました。

全世界のカルメル会は、今年2006年を福者三位一体のエリザベット帰天百周年として祝っています。

日本ではすでに四旬節講話（五回の講話）や一日黙想会（1月と7月）、9月14日～22日にはフランスへの巡礼の旅等を企画してまいりました。

なお、以下のようなプログラムを予定しております。三位一体のエリザベットの靈性に、ご関心のある方は、是非ご参加ください。



- * 一日黙想会（10：00～16：00）二つの講話とミサ 昼食は各自持参
日時：10月28日（土） 『三位一体への祈り』の黙想 九里 彰神父
【次ページに詳細があります】

場所：上野毛教会聖堂（カルメル会上野毛修道院聖堂）。参加費無料。

- * 調布女子カルメル会までの徒歩巡礼
日時：11月11日（土） 詳細は以下のページを参照のこと。
- * 帰天百周年記念の典礼
日時：11月8日（水） 午後7：30 晩の祈り
午後8：00 ミサ

カルメル靈性センター事務局 Tel(03)3704-2171 Fax(03)3704-1764



上野毛霊性センター '06年4月～'07年3月

A 黙想企画 ** 聖テレジア修道院(黙想) **

1.聖書深読(毎回土曜日 夕食～日曜日16時)

10月 7日～ 8日 九里彰師

12月 9日～10日 松田浩一師

07/ 2月24日～25日 九里彰師

2.奉獻生活者のための黙想会

B.10月20日(金) 夕食～29日(日) 朝 松田浩一師

C.12月26日(火) 夕食～07/1月4日(木) 朝 九里彰師

3.木曜黙想会 一般黙想(毎回木曜日 10時～16時)

10月19日 ファリサイ派とサドカイ派のパン種 九里彰師

12月21日 幼子の平和 九里彰師

07/2月15日 ザアカイの回心 九里彰師

4.金曜黙想会 カルメルの聖人(毎週金曜日 10時～16時)

11月17日 アヴィラの聖テレジアの「謙遜」と「離脱」 九里彰師

07/1月12日 十字架の聖ヨハネによる「生きる神との出会いの幕屋」 松田浩一師

3月16日 アヴィラの聖テレジアによる「主の証し人」 松田浩一師

5.青年黙想会 九里彰師 神学生

11月25日(土) 16時～26日(日) 16時

6.召命黙想会(男女) 九里彰師、松田浩一師(夕食を済ませてご参加ください)

11月3日(金) 20時～5日(日) 16時・・・(別ページ参照)

7.大祭日のミサに与かるために

【クリスマス】 12月24日(日)～25日(月) 《講話、夕食なし》
チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時

8.特別黙想会 伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ) 夕食を済ませてご参加ください。

・【神の現存を生きるエリザベツ】 カルメル会入会前までの生き方。

11月10日(金)午後8時～12日(日)午後4時

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので
なるべくFAX・はがき・Eメールでお願いします。(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp



B カルメル靈性研究クラス (九里 彰神父) 注意!開始時間変更

* 十字架の聖ヨハネ『靈の賛歌』

10月4日 「第20及び第21の歌」の11～19までと「第22の歌」

10月25日 「第23の歌」と「第24の歌」

11月15日 「第25の歌」

11月29日 「第26の歌」

* アヴィラの聖テレジア『完徳の道』

10月18日 (第28章と第29章)

11月1日 (第30章と第31章)

11月22日 (第32章と第33章)

どちらも水曜日夜7:15～8:45まで。テキストを少しずつ読み、解説と分かち合いがあります。上野毛教会信徒会館2階26号室。**無料**。

C 祈りの集い (九里 彰神父) 注意!開始時間変更

10月27日 「先生、目が見えるようになりたいのです。」

11月24日 「わたしの国は、この世には属していない。」

毎月一回金曜夜7:15分より。上野毛聖テレジア修道院(黙想)小聖堂。都合の悪い場合は、上野毛教会信徒会館ホールで。**無料**。

7:00～8:00 み言葉と念祷

8:00～8:30 分かち合い(参加自由)

D キリスト者の信仰の歩み～キリスト教靈性の初歩～

(松田 浩一神父)

第五回 10月6日

第六回 11月3日

第七回 12月1日

毎月、初金曜日。但し、7月、8月はお休み。

7:00～7:30 初金ミサ (上野毛教会聖堂)

7:40～8:40 勉強会 (上野毛教会信徒会館2階26号室)

* 参加費は無料。対象はキリスト者としての信仰を深めたい人とキリスト教に関心のある人。

幼きイエスの聖テレジアとマザーテレサ

慈しみ深い神を探す若者たちの集い (C.Y.C.)

10月1日が祝日となっている幼きイエスの聖テレジアをお祝いし、マザーテレサとの関係も見ながら聖テレジアの霊性を見てみましょう。

カルメル会では若者の集い『カルメル・ユース・クラブ』を行っています。カルメル家族に支えられて、イエス・キリストが示してくださった「いつくしみ深い神の姿」を追い求め、その神様に出会おうとする集まりです。この集まりは、家庭的な雰囲気の中で、「隠れている宝」に対する信仰を養っていきます。



日時： 10月1日(日)13:30 から 16:30 まで。

対象： 18歳以上 30歳までの青年男女。

スタッフ： 上野毛修道院のカルメル会士たち

場所： カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩5分

※ 駅からの案内図は、裏面をご覧ください。

プログラム：

- 13:30～ 受付開始（13:45～：はじめの祈り）
- 14:00～14:40 幼きイエスの聖テレジア（ビデオ鑑賞）
- 14:40～14:50 休憩
- 14:50～15:30 「キリストの渴き」について
- 15:30～16:00 青年たちのための祈り・賛美・祝福
- 16:00～16:30 幼きイエスの聖テレジアのお祝い
- 16:30 解散

参加ご希望の方は、お手数でも FAX または E-mail に住所・氏名・年齢をお書きの上、下記宛に送ってください。当日の飛び入り参加も OK です。直接会場にお越しください。

この次は、11月3日（金）pm1:30～pm4:00『神の国について』

（連絡先・問い合わせ）

カルメル修道会カルメル・ユース・クラブ

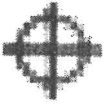
（C.Y.C.）係 松田神父

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

TEL 03-3704-2171 FAX 03-3704-1764

E-mail tokyo@carmel-monastery.jp





三位一体のエリザベット帰天100周年記念

一日黙想会 『三位一体への祈り』

講師：九里彰神父 (OCD)

エリザベットは、1880年にフランスのブルジュに生まれ、1901年にティジョンのカルメル会へ入会しました。5年間の修道生活の後、100年前の1906年11月9日26歳の若さで亡くなるまでに、「神は私の内に、私は神の内に」と三位一体の現存の神秘をひたすら生き抜きました。

全世界のカルメル会は、今年2006年を福者三位一体のエリザベット帰天百周年として祝っています。



10月28日(土)

- 10:00 第一講話
- 11:00 各自黙想 (赦しの秘跡をお受けできます)
- 12:00 お告げの祈り
昼食 (信徒会館ホールで)
- 13:15 第二講話
- 14:15 各自黙想 (赦しの秘跡をお受けできます)
- 15:15 ミサ
- 16:00 解散

日時：10月28日(土) 10時～4時

場所：上野毛教会聖堂 (カルメル修道会)

参加費無料・昼食は各自持参

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

Tel 03-3704-2171 Fax 03-3704-1764



…召命黙想会…

水を飲ませてください



イエスの思いはあなたの心にひびいていますか…？

対象：40歳以下の青年男女

日時：11月3日（金）午後8：00～11月5日（日）午後3：00

場所：聖テレジア修道院（黙想）

指導：九里神父、松田神父

費用：一般 10,000円 学生 5,000円

申込み方法 Fax、ハガキ、あるいはE-mailでお名前と連絡先をご記入の上、10月30日までにお申込みください。

カルメル修道会召命黙想係

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

FAX 03-3704-1764

E-mail tokyo@carmel-monastery.jp

特別黙想会

テーマ 【神の現存を生きるエリザベット】

・・・カルメル会入会までの日々の生活において

講師；伊従信子（NDV）



イエス・キリストによって
もたらされた三位一体の生命を生きることは
なんとすばらしいことでしょう。
主はご自分が《命》であり
私たちにそれをあふれるばかりに
与えるために来られたことを
繰り返し言われました。

カルメル会入会前のエリザベット

参考書：「あかつきより神を求めて」ドン・ボスコ社
「神は私のうちに、私は神のうちに」 聖母の騎士文庫
（教会、または聖テレジア修道院（黙想）でもお求めになれます）

日時； 11月10日（金）午後8時～12日（日）午後4時

場所； カルメル修道会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

10日は夕食を済ませてご参加ください

参加費用； ¥12,000

お申し込み、問い合わせ

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル修道会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

Tel 03-5706-7355 Fax 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

宇治聖テレジア修道院(黙想)

1. 聖書深読

① 一泊二日(午後5時～午後4時)

11月11日(土)～12日(日) 中川博道神父

07/ 1月27日(土)～28日(日) 未定

3月24日(土)～25日(日) 未定

② ミニ深読 (午後14時～午後16時)

10月17日(火) 深読スタッフ

12月19日(火) 深読スタッフ

07/ 2月13日(火) 深読スタッフ

2. 水曜黙想(午前10時～午後4時)

10月11日 アヴィラの聖テレジア Sr ベアトリス

11月 8日 三位一体のエリザベット アロイジオ神父

12月13日 十字架の聖ヨハネ 中川博道神父

07/ 1月10日 一年の歩み 未定

2月14日 聖ヨゼフ 未定

3月14日 主の十字架 未定

3. 四旬節黙想(午後4時～午後4時)

07/ 3月 3日(土)～4日(日) 未定

4. 待降節黙想(午後5時～午後4時)

12月2日(土)～3日(日) 渡辺幹夫神父

5. 聖テレズの黙想・・・終了しました

6. 奉獻生活者の黙想（午後5時～午前9時）

10月22日（日）～31日（火） カルメロ神父

12月27日（水）～1月5日（金） 渡辺幹夫神父

7. 青年黙想会（午前10時～午後4時）

11月5日（日） カルメル宣教修道女会 カルメル会士

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないこともあります。その際は、おそれいりますが後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-32-7457



…召命黙想会…

水を飲ませてください



イエスの思いは
わたしの心にひびいていますか……？

**イエスの招きに
耳を傾けるひとときをご一緒に
過ごしましょう**

対象：40歳以下の青年男女
日時：10月7日（土）午後4時～
8日（日）午後5時
場所：宇治カルメル会黙想の家
指導：松田浩一神父（カルメル会司祭）
カルメル宣教修道女会シスター
費用：5,000円

申し込み方法

Faxあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上
お申し込みください

〒611-0002
京都府宇治市木幡赤塚65 カルメル宣教修道女会
tel: 0774-32-7016 fax: 0774-38-2136

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の日静修～(2006)

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたかたと共にいる。」(マタイ28:20)と云われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかたがでしょうか。若者の召命、仕事の刷新、家庭生活の充実、老後のプランなどについて、イエス様からヒントをいただきましょう。カルメル・ファミリーがお手伝いします。

第1回	1月10日(火)	霊的生活	松田浩一神父 (上野毛修道院)	了
第2回	2月11日(土)	三位一体のエリザベット(1)	中川博道神父 (宇治修道院)	了
第3回	3月21日(火)	主イエスを着せられて新しい人に	カルメロ神父 (宇治修道院)	了
第4回	4月25日(火)	新しいびどう酒は新しい皮袋に	アダミニ神父 (日比野修道院)	了
第5回	5月13日(土)	聖母マリア	松田浩一神父 (上野毛修道院)	了
第6回	6月27日(火)	三位一体のエリザベット(2)	九里彰神父 (上野毛修道院)	了
第7回	7月15日(土)	カルメル山の聖母	中川博道神父 (宇治修道院)	了
第8回	9月12日(火)	幼いイエスの聖テレジアの祈り	カルメロ神父 (宇治修道院)	了
第9回	10月17日(火)	アヴィラの聖テレジア	アダミニ神父 (日比野修道院)	了
第10回	11月23日(木)	十字架の聖ヨハネ	九里彰神父 (上野毛修道院)	

- * 時間 AM10:00~PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分)
(駐車場は利用できません。)
- * 費用 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約15名
- * プログラム
 - 10:00~ 祈り
 - 10:40~ 講話【1】
 - 12:00~12:45 昼食
 - 12:50~ 赦しの秘跡または短い面接
 - 13:30~ 講話【2】
 - 14:45~ ミサ
 - 15:30~ 茶話会
 - 16:00~ 終了

☆ 空いている時間に、赦しの秘跡または短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

名古屋カルメル霊性センター—日静修係

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

または、〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林厚 TEL/FAX 052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 3 京 都

10月14日（土） 奥村一郎神父
11月11日（土） 新井延和神父
12月 9日（土） パトリック オヘール神父

*日曜日の福音を深く味わい、分かち合い、解読で学びながら福音を深く心に刻む
聖書深読黙想会に、どなたでもご参加ください。

場 所：河原町カトリック会館6階又は7階
費 用：各回 2,500 円（昼食代を含む）
時 間：午前10時～午後4時 持参品：聖書・筆記用具・ノート

申し込み・問い合わせ （お申し込みは、各回3日前までに）

〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル
河原町カトリック会館内 聖書委員会
TEL：075-211-3484 FAX：075-211-3910



通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 有光信子さんのグループ

参加者は「素読表」（B5あるいはその半分に、記号、全、及び思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはないので、コメントや解説はない。

費用：1回 300円 年 10回 3,000円

送り先：〒663-8033 西宮市高木東町 31-20-504 有光信子

TEL/FAX 0798-67-8132

3 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrベアトリス指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srベアトリスまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srベアトリス

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

2006年度

カルメル在俗者会 東京兄弟会 黙想会

		ご指導	
日程：6月	6日(火) 夕食 ~ 9日(金) 昼食	チプリアノ師	了
	8月22日(火) 夕食 ~ 25日(金) 昼食	アロイジオ師	了
	9月14日(木) 夕食 ~ 17日(日) 昼食	松田 浩一師	了
	10月12日(木) 夕食 ~ 15日(日) 昼食	中川 博道師	

場所：カルメル会聖テレジア修道院

☆空きがある場合には、一般の方も参加できます。

おたずねください。

☆お申し込み、お問い合わせ先

TEL & FAX 045-562-2296 (永瀬)



カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」(2006年特集号)

「二十一世紀の人々へのメッセージ」

福者三位一体のエリザベットの霊性」

- エリザベットとともに生きる関わりの神秘 …伊従信子
歴史の中の三位一体のエリザベット …大瀬高司
三位一体のエリザベットの生涯とメッセージにこだまする聖書の言葉
…ベアトリス・ディクナ
三位一体のエリザベットと福音宣教 …北村喜朗
三位一体のエリザベットが示す平和と幸福 …九里 彰

雑誌「カルメル」No. 322 (2006年秋号)

「今日の霊性」

聖書

聖霊の光の下に —— 聖書と教父 (3) …高橋正行

カルメルの諸聖人

信仰による照らし —— 第三講話(第三部) …フェデリコ・ルイス

アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味 (3)

—— 『靈魂の城』を中心にして …九里 彰

三位一体のエリザベット帰天百周年にあたって …伊従信子

—— (3) 最後の日々

エデット・シュタインの神への道行き (1)

—— アヴィラのテレサとの邂逅とその影響…須沢かおり

愛で生きる (2) …ペトロ・アロイジオ

幼きイエスのマリー・エウジェヌ師 (14)

—— 神よ、あなたはどこに …伊従信子

霊性一般

【霊的講話】 今、光を生きる …中川博道

“生きるために死ぬ” ということ …森 みさ

愛の断章 (1) …奥村一郎

※年5冊(春夏秋冬号+特集号)会員頒布価格：3000円(送料込み)

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会

(どなたでも購入できます。電話でのご連絡は、事務担当竹田：Tel03(5706)8356迄)

待望の再販

『自叙伝』(サンパウロ社)

『創立史』・『完徳の道』・『靈魂の城』(ドン・ボスコ社)

10月1日

幼いイエスの聖テレジアおとめ教会博士（祝日）



すべては 恵み です

〜幼きイエスの聖テレーズ〜

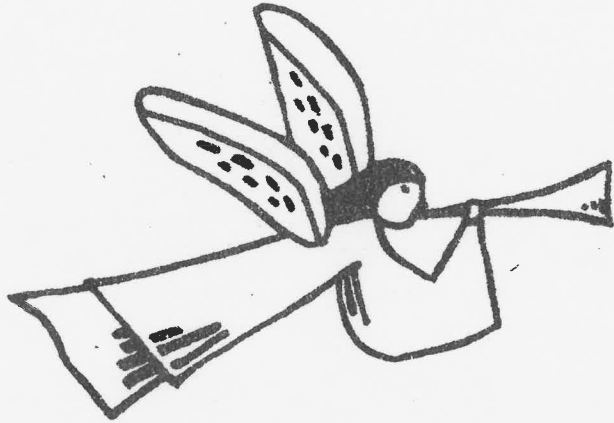
10月15日

わたしたちの母 イエスの聖テレジア（アピラ）おとめ教会博士（祭日）



何ものにも心乱されず
何をも恐れるな
すべては過ぎ去る
神のみ変わらず
耐え忍ぶとき
すべてをかちえる
神に生きる人には
欠けるものはなし
神のみにて足りる
イエスのテレジア

諸所の企画案内



CWC (キリスト者婦人の集い)

心のいほり

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

真命山霊性交流センター

マリアのみ心会

ノートルダム・ド・ヴィ

内案画金の商標



（イ案の人願答イスリキ）CWC

き球の心

強難題イスリキ父解一ハ一てくサ一リ

一マくサ商交封業山命真

会心者のアリマ

トウ・ヲ・ムセウイー

諸所の企画案内

【CWC 講話会】

キリスト者婦人の集い主催 講師：九里 彰神父（カルメル会）

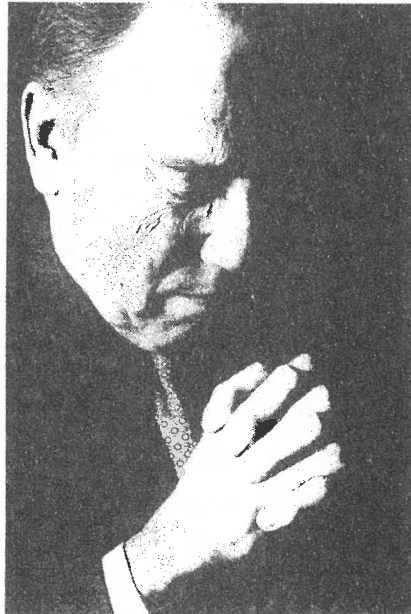
場所：真生会館4階第8会議室 時間：午前10時30分～12時

対象：キリスト教に関心のある方はどなたでも。

2006年の日程

聖書講話

- 了 7月4日（火） 聖書と祈り III
10月3日（火） 聖書と祈り IV
（10日より変更）
11月14日（火） 聖書と祈り V
12月12日（火） 聖書と祈り VI



内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は6泊7日で全てを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせ下さい。電話では取次いでおりません。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」

藤原神父 FAX 072-802-5026

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

★ 2006年度予定 ★

F2	2006年	4月23日(日)2時から	4月29日(土)2時まで	横浜・戸塚	了
M1	2006年	5月26日(金)2時から	6月1日(木)2時まで	盛岡・白百合	了
N2	2006年	6月7日(水)2時から	6月13日(火)2時まで	京都唐崎ノートルダム	了
F3	2006年	6月18日(日)2時から	6月24日(土)2時まで	横浜・戸塚	了
N3	2006年	7月2日(日)2時から	7月8日(土)2時まで	京都唐崎ノートルダム	了
Y1	2006年	7月23日(日)2時から	7月28日(土)2時まで	神戸須磨ヨハネ	了
P3	2006年	8月13日(日)2時から	8月19日(土)2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	了
F4	2006年	9月17日(日)2時から	9月23日(土)2時まで	横浜・戸塚	了
B2	2006年	10月22日(日)2時から	10月28日(土)2時まで	札幌厚別ベネディクト	
F5	2006年	11月12日(日)2時から	11月18日(土)2時まで	横浜・戸塚	
P4	2006年	11月26日(日)2時から	12月2日(土)2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	

★ 2007年度(決定しているものだけ) ★

K1	2007年	1月21日(日)4時から	1月27日(土)2時まで	東京・小金井・聖霊会	
B1	2007年	1月29日(月)2時から	2月4日(日)2時まで	札幌厚別ベネディクト	
Y1	2007年	2月10日(土)2時から	2月15日(金)2時まで	神戸須磨ヨハネ	
P1	2007年	2月22日(木)2時から	2月28日(水)2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	
N1	2007年	3月4日(日)2時から	3月10日(土)2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	
K2	2007年	3月18日(日)4時から	3月24日(土)2時まで	東京・小金井・聖霊会	
K3	2007年	6月3日(日)4時から	6月9日(土)2時まで	東京・小金井・聖霊会	
P2	2007年	6月17日(日)2時から	6月23日(土)2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	
N2	2007年	6月26日(火)2時から	7月2日(月)2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	
Y2	2007年	7月22日(日)2時から	7月28日(土)2時まで	神戸須磨ヨハネ	
P3	2007年	8月10日(金)2時から	8月16日(木)2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	
K4	2007年	9月9日(日)4時から	9月15日(土)2時まで	東京・小金井・聖霊会	
B2	2007年	10月17日(水)2時から	10月23日(火)2時まで	札幌厚別ベネディクト	
N3	2007年	11月2日(金)2時から	11月8日(木)2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	
K5	2007年	11月11日(日)4時から	11月17日(土)2時まで	東京・小金井・聖霊会	
P4	2007年	12月3日(月)2時から	12月9日(日)2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	

リーゼンフーバー神父 講座 集いの案内

1. キリスト教入門講座 (42 ページをご覧ください)
2. キリスト教理解講座 (43 ページをご覧ください)
3. 聖書研究会
日時：木曜日 12時40分～13時25分 (上智大7号館316号室)
学生のどなたでも、新約聖書を1章ずつ読んで話し会います。
4. 座禅会 (44 ページをご覧ください)
5. ミサ
日時：水曜日 17時10分～18時 (8月を除く)
場所：上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂 どなたでも
6. 黙想
日時：水曜日 18時～18時30分 (8月を除く)
場所：上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂 どなたでも
~~通う霊操8/19(土)～8/27(日)18時～21時~~
上智大学内クルトゥルハイム聖堂
7. 祈りの集い
日時：下記の土曜日13時30分～16時 講話、黙想、ミサ。
~~6/6. 6/10. 7/3. 8/10. 9/9.~~ 10/7. 11/18. 12/9.
2007, 1/13. 2/3. 3/10
場所：上智大学内S. J. ハウス第5会議室
*：ロザリオの祈り 同日16時15分～16時55分
クルトゥルハイム1階右小聖堂
8. 黙想会
日時：~~6/9(土)10時～4日(日)15時. 9/29(土)10時 24日15時~~
場所：上石神井. 一泊5,800円
12/2(土)10時～3日(日)15時. 東村山
2007, 2/24(土)～2/25(日)15時. 上石神井
9. アガペ会 下記の日、説明会13時30分と集い14時～18時
~~6/17(土)~~. 10/29(日). 2007, 1/21(日)
10. クリスマス会 聖イグナチオ教会信徒会館ヨセフホール(申し込み)
日時：12/16(土)16時30分～
*：ミサ 12/23(土)14時～上智大学内クルトゥルハイム聖堂

リーゼンブーバー神父 キリスト教入門講座

2006～2007年

このクラスでは、開かれた雰囲気の中で人生の問題に対する聖書の答えを聞くことを通して、キリスト教の教えを包括的に学び、信仰に基づいた生活態度の形成を旨とします。
(受講は無料です)

対象 キリストの教えを学び、信仰を自分自身の問題として考えたい方。
どなたでも歓迎です。キリスト教の予備知識は必要ありません。

内容 1時間半の講話では、人間のあり方と現代的な問題意識から出発して、聖書のメッセージを徹底的に取り上げ、キリスト教を理論的にも実践的な意味からも説明します。また、黙想会などを通して祈りや信仰体験を深める機会もあります。1年間の講座を通してキリスト教の基本的な教えの全体をテーマ別に取り扱います。
1年間のプログラムになっていますが、中途参加をされても結構です。また、その日のテーマに興味を持たれた場合は、どうぞお出かけください。なお、このクラスは受洗を希望する方にとって、十分な準備となります。

日時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

各回のテーマ

- | | |
|-------------|-----------------------|
| 了 9 / 1 | イエスの復活—今に生きるイエス |
| 了 9 / 8 | 聖霊—神の愛に導かれる |
| 了 9 / 15 | 祈りの本質とさまざまな祈り方—神と関わる |
| 了 9 / 22 | 洗礼と堅信—イエスに結ばれて生きる |
| 了 9 / 23—24 | ●黙想会 |
| 9 / 29 | 教会の成立と意味—イエスを中心に集う |
| 10 / 6 | 人間としてのイエス—新しい人間像の基礎付け |
| 10 / 13 | 御子としてのイエス—イエスの神との関係 |
| 10 / 20 | 父と子と聖霊—神の生命に与る |
| 10 / 27 | 信仰の決断—支えられて生きる |
| 11 / 10 | ミサ祭儀—神への奉仕と生活の糧 |
| 11 / 17 | 自己実現と神の意志—生き方の規範 |
| 11 / 24 | 人間の弱さ—罪とは何か |

リーゼンフーバー神父 キリスト教理解講座

2006年～2007年

日時 毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分

場所 カトリック麴町聖イグナチオ教会 信徒会館3階アルペホール 電話 03-3263-4584
JR中央線・総武線、地下鉄丸の内線・南北線 四ッ谷駅徒歩1分

対象 キリスト教についての基礎知識をもち、信仰をより深く考えたい・理解したい・
生きたい方はどなたでも歓迎です。

内容 人生を支える信仰の力と豊かさを発見するために、キリスト教の内容を包括的かつ
徹底的に知るよりも、優れた道はないでしょう。本講座では信仰の中心的な諸テーマ
を解明することを通して、その基盤と意味を探求し、理論的理解を深めるとともに信
仰生活に指示を与え、充実した祈りへの道も開きます。現代の問題意識を常に背景に
しながら、聖書を元に、古代と中世の奥深いキリスト教思想を参考にして、信仰を人
間論的・神学的・哲学的な観点から展開します。専門的な知識は前提とされませんが、
入門講座程度の基礎知識は必要です。2年間の計画になっていますが、本年度は信仰
の内容に重点を置き 次年度は信仰の実践を取り扱う予定です。途中参加・部分参加
も可。講座は無料です。

日時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

各回のテーマ

了 9 / 5	将来への導き—自立した世界の中の摂理
了 9 / 19 [イエス]	「神の国」—福音の中心的テーマ
了 9 / 23—24	●黙想会
10 / 3	史的イエス—その生き方と自己理解
10 / 17	イエスの活動—しるしとしてのわざ
10 / 31 [救い]	和解する愛—弟子に心を開くイエス
11 / 7	受難による救い—イエスの救済的役割
11 / 21	死からの命—復活の認識・経験・理解

坐禅会



月曜日 : 17時20分～20時10分

木曜日 : 18時～20時30分

場 所 : 上智大学内カルトウルハイム 1階正面左の部屋
3回坐り、間に講話があります。

初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

接心 2006年度

関東

~~4月28日(金)20時30分～6月5日(金)19時~~

~~6月23日(金)20時30分～25日(日)13時~~

~~8月9日(水)20時30分～16日(水)12時~~

10月31日(火)20時30分～11月5日(日)13時

秋川神真窟
1泊2400円程度

関西

~~5月18日(土)13時～14日(日)16時~~ 宝塚市②

~~7月31日(月)17時30分～8月8日(日)13時~~ 宝塚市①

連絡先 ① シスター田中 電話 0797-84-7863

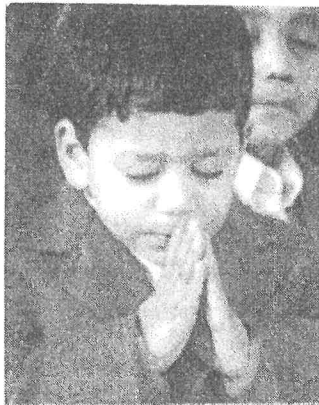
② 岸本 正 電話 078-583-3067

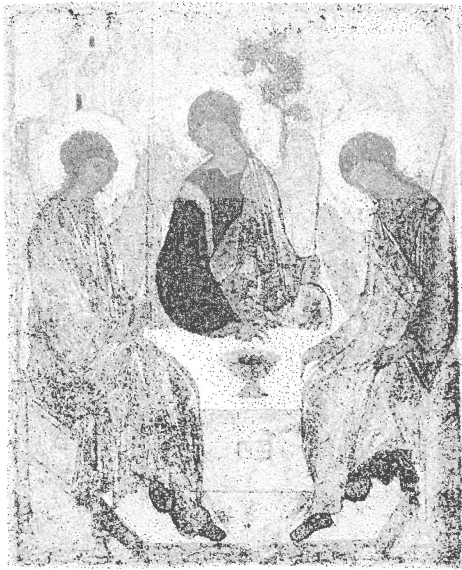
指導と問い合わせ先

クラウス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S. J. ハウス

電話 03-3238-5124 (直通)、5111 (伝言)、FAX 03-3238-5056





生命山の靈性

真命山

2006年度のご案内

祈りの集い(毎月 午前10時～午後3時)

年間テーマ:

三位一体の唯一の神と共に生きる

自然

神はすべてを作り、
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで

祈り

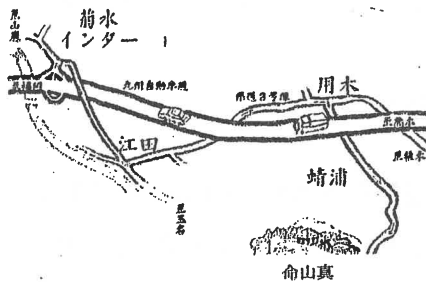
静けさ

沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を分かち

交わり

- 1月12日 3人の旅人の姿をもって現れた神 了
- 2月 9日 イエス様をおして現れる三位一体の神 了
- 3月 9日 ルプロフの三位一体の神 了
- 4月 6日 父である神 了
- 5月11日 子である神 了
- 6月 8日 聖霊である神 了
- 7月13日 ルプロフのイコンの前で祈る 了
- 9月14日 父と子と聖霊の名による洗礼 了
- 10月12日 三位一体から御聖体の神秘へ
- 11月 9日 三位一体の唯一の神と共に生きる
- 12月14日 三位一体と降誕祭の神秘



* 個人またはグループでの黙想会や研修会も、
予約をとっていただければ、歓迎いたします。

865-0133 熊本県玉名郡菊水町蜻浦 1391-7
☎ 0968-85-3100; fax 0968-85-3186
e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

マリアの御心会

黙想会プログラム

「来て、見なさい」

- 4月23日(日) 「キリストのいのち」 了
5月28日(日) 「神の望みを心に留めたマリア」了
6月25日(日) 「私たちのために裂かれたイエスの体」了
7月23日(日) 「人々の中におられるイエス」了
9月24日(日) 「神の愛に生きる」了
10月22日(日) 「キリストが私の喜び」
11月26日(日) 「王であるキリストの呼びかけ」
12月17日(日) 「イエスは世の光」

'07/

- 1月28日(日) 「イエスのいやし」
2月24日(土)～25日(日) 「イエスの渇き」上石神井黙想の家
3月25日(日) 「赦すイエス」

結婚・修道生活・独身生活を選定したい方

自分の道を見つけない、祈り考えたい方のために開かれています。

対象：20代30代の独身女性

講師、時間などが月によって違いますのでお問い合わせください。

場所：〒160-0012 東京都新宿区南元町 6-2

JR 信濃町下車徒歩2分

問い合わせ・申し込み TEL 03-3351-0297 FAX 03-3353-8089

E-mail midorif@jca.apc.org <http://www.meisen.org.org/maria>

すべての人のための祈りの集い
いのちの泉へ

— キリスト者としての成長をめざして —

2006年

10月21日(土)

三位一体のエリザベット生誕100周年にあたって

カルメルの恵みのうちに

今後の予定

11月18日(土) 12月16日(土)

講話

伊従信子・片山はるひ (ノートルダム・ド・ヴィ会員)

参加費200円

午後2時より 講話・祈り・分かち合い

午後5時半 ミサ(参加自由です)



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail ndv-jp@r2.dion.ne.jp

カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

最近刊紹介

三位一体のエリザベット帰天 100 周年記念出版

『神はわたしのうちに、わたしは神のうちに』

——三位一体のエリザベットとともに生きる——



伊従 信子著

聖母文庫：聖母の騎士社

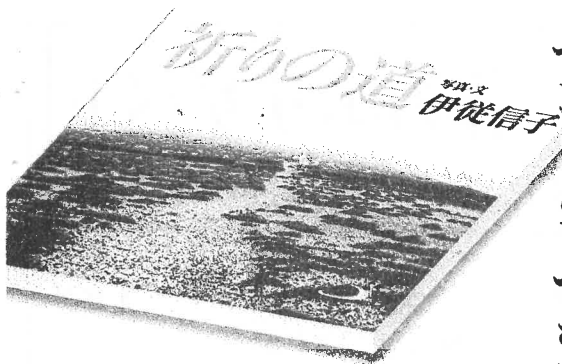
定価 500円 + 税

196 p

わたしの一生に太陽の光がさんさんと注いでいたのは、
心の深みに住まわれる神と親しくしていたからでした。

三位一体のエリザベット

三位一体のエリザベットの生涯の全貌とその本質を垣間見させてくれる十一章を帰天 100 周年にあたってお届けします。



祈りの道

●B5変型・上製 ●48頁 ●定価800円+税
●ISBN4-8056-0463-8

この世において苦しみ絶えることはありません。
——時と場所を越えて、
苦しみの原因、様相は違っても。
しかし、苦しみをどのように耐えて生きぬくかは、
人によって違います。神の子キリストは
「永遠の今」のうちに苦しみを生き、
その中で、わたしたち一人ひとりの苦しみを
知っておられました。
わたしたちも苦しみの中で、
十字架にかけられたそのお方の近くに留まる
……それだけで最高の祈りだ、
とエリザベットは言います。

(「祈りの道」より)

日々の生活に潤いをもたらす、
珠玉のことばと写真を贅沢に集めた2冊。
お祝いプレゼントとしても最適です。

写真・文
伊徒信子

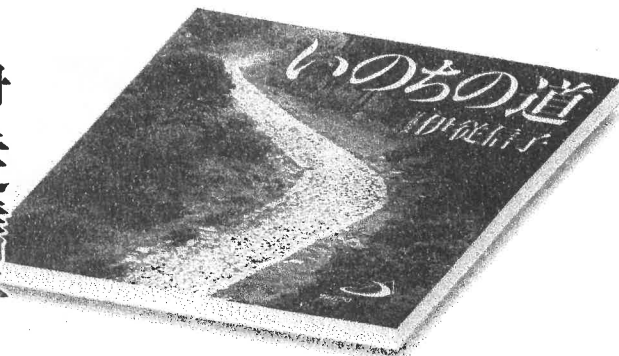
十字架近くに
とどまっているだけで
あなたの苦しみは
最高の祈りです



三位一体の
エリザベット

いのちの道

●B5変型・上製 ●48頁 ●定価800円+税
●ISBN4-8056-0462-X



サンパウロ

<http://www.sanpaolo.or.jp>

〒160-0004 東京都新宿区四谷1-21-9

Tel. 03-3359-0451 Fax 03-3351-9534

帰天100周年記念に贈る、
福者三位一体のエリザベトの生涯！

三位一体のエリザベト
神は私のうちに
私は神のうちに



菊地多嘉子 著

ドン・ボスコ社

三位一体のエリザベト

神は私のうちに 私は神のうちに

Sr. 菊地多嘉子が、沈黙の生活の中からわきあがるエリザベトの靈性の美しさを記す。

「神秘中の神秘である三位一体に引き込まれていく」一修道女の生涯。

菊地多嘉子著 64頁 新書判 定価(本体500円+税)
ドン・ボスコ社

10冊以上20%割引!

